

乳鉢

「ファミリー・ヒストリー」



大分東医師会 井上 徳 司

「ファミリー・ヒストリー」という月曜夜10時のNHKの番組を御存知でしょうか。最近では競馬好きの徳光和夫さんが天才騎手の福永洋一、祐一親子と遠縁であるとか、又、小倉南区の徳光という場所がルーツではないかとか、元格闘家の武蔵があの一休さんに出てくる蜷川新右衛門の末裔であるとか、俳優の浅野忠信がアメリカ人のクォーターであるなど著名人のルーツを紹介する番組です。変えようのない真実であり面白いので観ています。この番組から学ぶことはやはり御先祖の苦勞があつての我々だということでしょうか。

この機会にNHKが調べることもない私の「ファミリー・ヒストリー」を少し書かせて下さい。私の父は大分市で多くの兄妹の長男として育ちました。早くに父(私の祖父)を亡くし苦勞したようです。公務員を定年まで勤め、現在82歳ですが数年前にした脳梗塞の影響もあり現在要介護状態です。以前父に我が家の祖先は福岡県小郡市のほうから大分にきた(江戸時代?)と聞いたことがあります。高速の大分道で鳥栖ジャンクションの手前に井上というパーキングエリアがあります。インターネットで調べると小郡市井上という地区があり井上公民館や井上公園とかもあります。また井上歯科医院や市議員で井上さんというかたもおられます。このあたりに自分と同じ先祖をもつ人々がいるのかなと思っています。

私の母も多くの兄妹の真ん中として育ちました。数年前に2回目の脳卒中で74歳で他界しましたが、母の死後、半世紀を経た私の母子手帳が出てきました。私を出産した場所は鶴崎市となっています。予防接種の記録もありました。インフルエンザ一回100円、日本脳炎一回160円などかいてあります。生前母は平凡な主婦でしたが、2002年のワールドカップの際、道路の掃除や花植えのボランティアを嬉しそうにしていたのを思い出します。

さて私は三人兄弟の真ん中として育ち、妻と息子が一人います。大学ではラグビー部に所属し、昨年ノーベル賞を受賞した山中教授(神戸大学ラグビー部)とは同い年ですので同じ時期に神鍋高原(西医体)でプレーしていたと思われます。今どうしてこんなに差があるのかまあわからないでもありませんが、現在与えられた仕事(開業医)を地道にやっ払いこうと考えています。

乳鉢

ドイツ紀行



大分県医師会 吉村 彰

昨年の夏に一週間クリニックを閉めて、家内とドイツ旅行に行った。ミュンヘンで開催されたヨーロッパ心臓病学会に出席することが大義名分だったが、一週間も自院を閉めることにいくらかの抵抗はあった。しかし開院十周年だったし、十年頑張ったご褒美に一週間くらい休みを取っても許してもらえらるだろうという安易な言い訳も手伝って思い切って行くことにした。もちろん学会会場に行ったのは一日のみで、大半をドイツの観光に費やした。

ミュンヘンやローテンブルクで中世の街並を堪能し、教会や城を巡っては当時の王家の財力に驚嘆した。昼はレンタカーでアウトバーンをぶっ飛ばし、夜はビアホールでソーセージをつまみながらビールを飲んだ。疲れもしたが、日常の煩惱から離れ、有意義な時間を過ごすことが出来た。想定外の出来事もいくつかあったが、その中で最も驚いたことについて書こうと思う。

ミュンヘンでの最終日、レンタカーを返却してタクシーで郊外のホテルに向かっていった時のこと。10分ほどでホテルに着くはずが、20分経ってもなかなか着かない。悪い運転手に捕まったか、と思っていると、運転手は何やらブツブツ言っている。よく聴くと、ボンバー、ボンバーと聞こえてくる。爆弾？ それから運転手の話を必死に聞き取ろうとすると、目的のホテルのすぐ近くで第二次大戦中の不発弾が発見されたらしく、ホテルの周囲、半径2キロメートル以内の道路が封鎖されているというのだ。そういえば道路際にやたら警察が出ていて交通規制をしている。そして運転手は行けるところまで連れて行くが、そこからは自分で歩いてもらうしかない、と言った。そのとき私は家内とは別行動で、一人で大型スーツケースやバスタンバックなどたくさんの荷物を持っていた。タクシーは迂回を繰り返しながら可能な限りホテルの近くまで行ってくれたが、最後は警察に止められてそこで客を降ろすように指示された。そして僕は見ず知らずの土地で薄暗がりの中、大荷物を抱えながら人通りのない道を言われた方向にとぼとぼと歩いて行った。そして15分ほど歩いてやっとホテルにたどり着いたときは、ほっとして全身の力が抜けた。

当然ながら想定外の出来事だった。想定し難いことを想定するのは不可能だ。しかし、想定外の出来事に遭遇する覚悟はしておいたほうがいい、と思った。

乳鉢

夢

別府市医師会 大澤直文



新しい年になり、今年目標、達成したい夢は何ですか？と問われたとき答えに窮してしまう。最近、気になるCMがあった。クレジット会社のもと思われ、細かなところは異なっているかもしれないが、概要はこうである。星空のもとで小さな女の子と4代のお父さんが話している風景である。女の子はお父さんに「私、大きくなったらお父さんのようなカッコいい建築家になるの。」お父さんは優しく満足そうな笑顔で答えている。女の子はさらにこう続ける。「で、お父さんの夢は？」お父さんの表情が急に変わった。多分に自分の感情移入があると思われるが、私はこう思った。もう夢をみる歳ではないのに。でも誰が夢をみる歳ではないと決めたのか。夢をみてはいけない歳ではなく自分から夢をいつの間にか捨ててしまったのではないかと。

小学生のころは考古学者になりたかった。小学生のレベルだから知っているが、いろいろ本を読んだ。その中でもシュリーマンの話が好きだった。シュリーマンは、物語の中の架空の都市と思われていたトロイが、子供のころから実存すると信じ、大人になり遺跡を発掘することで実在を証明した人物である。シュリーマンは、この夢を実現するため、まずロシアに移住し、貿易商となり巨万の富を得、40歳代前半に事業をやめ、その私財をなげうって、トロイの遺跡の調査を始め、発見、発掘したのである。素人に近いシュリーマンが発掘したことで遺跡の保存が完全ではなくなったという考古学者もいたらしいが、遺跡の発見という結果だけでなく、一生の夢を持ち、その夢を実現するために、小さな目標を作り、一生をかけて成し遂げていく、この過程が、小学生ながら素晴らしいと思った。

自分を含め多くの人々の人生はこんな大それたものではないが、それでも夢や目標をもち日々生活しているものだ。

考古学者という憧れは、遠く夢物語になってしまったが、いつ頃からか医学を志すようになった。そして医師になったころより、開業し、自分の考える医療をしたいという夢を持ち始めた。そのために、手術だけでなく、内科疾患の診察や、内視鏡もできる病院に派遣してもらったり、内科の先生に教えを乞うたりした。開業して役立ったことに間違いはない。開業に際して、協力していただいた方に感謝すると同時に、まだ夢の途中と考えたい。

現在50歳、半世紀過ぎたところで、何か新たな夢を持ちたいものである。さて、酒でも飲みながら考えるとしようか。

乳鉢



たかが頭痛，されど頭痛

大分都市医師会 佐藤 眞一

最高裁判所ホームページの資料によると、医事関係訴訟事件の新受件数は平成16年の1,110件をピークに減少し、ここ数年は750件前後で推移している。平均審理期間は約24か月と短縮傾向にあるが、一般民事訴訟の8か月と比べ3倍も長い。

頭痛はCommon diseaseであるが、恐ろしいものも潜んでいる。いわば、「羊の皮を被った狼タイプ」で、医療訴訟になる確率が高い。1. 突然発症、2. 改善し得る治療あり、3. 結果が重篤、の3つが重なると医療訴訟になり易く、その代表疾患は「くも膜下出血」といえよう。法律情報データベース「医療判例」のキーワード検索で150件程ヒットする。

くも膜下出血は60%程度の典型例診断は容易だが、非典型例も少なくない。動脈解離では、くも膜下出血や脳梗塞で発症することが多いが、頭痛のみのことも有り得る。「たかが頭痛，されど頭痛」英訳すればIt's only a headache, but occasionally causes problems.が適切か。

医療訴訟は真実と救済を本当にもたらすのだろうか？この答の一つに有名な研究Harvard Medical Practice Study (New England Journal of medicine, 1991~96)がある。ハーバード大の研究者が3万ものカルテを調べ、医療事故や過誤の頻度、過誤訴訟との関係を検討したものである。

1. 1,300例弱に医療事故が起き、そのうち280例が過誤によるものであった。
2. 医療事故の結果死亡に至った症例が13.6%，死亡例の約半数は過誤によるものであった。
3. 実際に過誤にあった人のほとんど(280人中272人)が損害賠償を請求していなかった。
4. 過誤による賠償請求した51例の大部分は研究医師達が「過誤なし」と判定したものであった。
5. 事故や過誤が全く存在しなかったと考えられる事例の約半数で賠償金が支払われていた。
6. 過誤が明白と思われる事例の約半数で全く賠償金が支払われていなかった。
7. 賠償金額の多寡は医療過誤の有無とは相関せず、患者の障害の重篤度だけに相関した。

以上、「訴訟の勝ち負けは過誤の事実とは全く関係のないところで決定されている」という衝撃的な結果となった。つまり訴訟は、医療過誤抑制効果や医療の質改善効果をもたらさないばかりか、医療者に訴訟に負けない努力だけをさせることになる。

もし今でも救済制度として機能しないだけでなく、医療過誤防止という最重要点からもかけ離れているならば、本来あるべき正しい姿に変わってくれる日が来ることを心から願いたい。

乳鉢



おんせん県

大分市医師会 村上智貴

大分県が「おんせん県」と名乗って観光で売り込みだしている。香川県がうどん県・岡山県がフルーツ県を名乗ったのを真似てのことで、温泉なら全国にあるのに湧出量・原泉総数が日本一だからということらしい。そう聞いてデータを初めて知ったので、あながち無駄ではない。

生まれも育ちも大分県の自分には「旅館やホテルに泊ったら温泉がある」ことに慣れてしまっている。内湯と露天風呂だけでなく夜と朝は男女のお風呂入れ替えて別の景色を楽しむことが当たり前だと思い込んでいたが、よそではどうなのか。そういえば学会に行って泊まるホテルには都会だからか温泉は無い。

温泉だけじゃなく肉も魚も美味しいし、生活にはとてもいい県らしい。これは他県から来た人たちに言われてわかったことなので、自分のことは客観的にみないとわからないという事だろう。また、その評価を正直に自分に伝えてくれる友人も大切になってくる。

私はドライアイや白内障術後の屈折など自分ではそこそここだわってるつもりでも、オビニオンリーダーの受け売りで真似してるだけだからオリジナリティーはないと思っていた。が、ノーベル賞の山中教授もプレゼンテーションは大切と言ってたし、少し頑張ってみようか。でもやっぱり自分の売り込みは難しい。

色々考えるのは恵まれた温泉のなかでゆっくりと・・・

日本一の
おんせん県
おおいた

味力も満載

乳鉢



長生き症候群と言われて

大分都市医師会 山下 啓行

「先生は、いわゆる長生き症候群ですよ」と、今年健康診断して頂いた内科の先生のお言葉。専門の先生から言って頂くとやはり嬉しいものです。

私が今、健康でいられるのは、週2回程度続けているトレーニングのお蔭だと思っています。時間も短く自己流ですので、本格的にされている方からすれば鍛えているうちに入らないかと思いますが、今の自分にはこれが精一杯です。トレーニングを1ヶ月休むとそれまで努力して鍛えた筋肉が衰えていくと聞いたので、勿体なくてやめるにやめられなくなってしまっただけなのですが、飽きっぽい性格の私が何と16年間も続けています。トレーニングをしていて良かったと思える事がもう一つあります。仕事で身体がへとへとになっても、心がとても落ち込んでいても、トレーニングをしている間だけは頭が真っ白になるくらい「無」になれるのです。気持ちの切り替えが下手な私にとって、気持ちと身体をリセットするスイッチの役目をしてくれました。また、仕事で不安な事があると眠れなくなって困る事もありましたが、トレーニングした日はその疲れでよく眠れるので次の日の朝は逆に楽でした。今思えばこれはとても大きかったと思います。

体力作りの目的で始めたトレーニングがきっかけで健康にも興味を持つようになり、食事や生活習慣にも気を遣うようになったのは良い影響でした。父と父方の祖父が60代で他界しており、以前から自分の健康に少々不安を感じていた事もあって、その不安を払拭したい気持ちが心のどこかにあったのでしょうか。ただ身体を鍛えるだけよりも身体全体の機能を向上させようといつからか考えるようになりました。

私の目標は「体力をつけること」から「若さを保つこと」に、さらに「若返ること」へと変わってしまいました。全ての病気に加齢が関与しているのは事実ですから、病気になりたくなければ年を取らなければいい。いや、どうせやるならいっそのこと若返ればいいじゃないかという訳です。

自分自身で若返りを実感できる日がいつかくるのでしょうか。その日が来るのを信じて続けてみるしかありません。

乳鉢



運動のすすめ

大分県医師会 安部雄征

梅雨も明け暑い季節となり、早いもので明野にクリックを始めて一年が経とうとしています。初心者マークの段階で、あれこれ悩みがつきませんが、周りの方々のおかげで何とかやれている状態です。原稿の依頼を頂き、何を書こうか迷いましたが、好きな夏に依頼をもらったのも何かの縁と思い、趣味のトライアスロンをはじめ書きかけを書こうと思います。大学時代の私を知っている人はビックリするかと思いますが、トライアスロンを始めてなんと6年、フルマラソンに出場するようになって9年が経ちます。

大学時代はヘビースモーカーの上、ちょくちょく焼き鳥屋で深酒をし、食事は外食で好きなものを食べる生活でした。勿論そんな食事でしたので国家試験が終わった頃には体重90kg越えと立派な肥満でした。医者になり、少しは体が気になりプチダイエットを行いましたが、リバウンドを繰り返し、禁煙はする気もなく、心筋梗塞まっしぐらな状態でした。そんなこんなが続いている時に何の縁か医局全員がマラソンを走っている救急病院に派遣になりました。最初は拒み続けていましたが、周りの環境から逃げられず、しびしび3km程度を何とか走り始めました。最初は平気そうに走る女子の横で、それこそ死ぬかと思うほどの息づかいでの哀れな走りでした。いつもならここで辞めるはずなのですが、周りのアメとムチのお陰(?)でマラソン大会に出場する話まで進展。最初は5kmに出場する予定が、“5kmより10kmの方が周りのスピードが遅いので楽だよ”とわかる様なわからないような説明を素直に信じ、10キロマラソンに出場。マラソン大会中は勿論心臓が飛び出しそうなほどきつかったのですが、何故か走り終わると爽快な気分です。一回でやめようと思っていたマラソン大会にその後も出場。練習もこまめに行うようになり、フルマラソンを完走できるようになり、タイムなんかも気にする頃になるといつの間にか禁煙も成功。一旦始めるとのめり込む性格から調子にのり夏の姫島のトライアスロン大会に出場。真夏の空の下で行う大人の遊びを満喫し、すっかり3種目のトライアスロンにハマリ、あれよあれよのうちに聖地宮古島トライアスロンに出場するようになり、2年連続で完走しストロングマンの称号も頂きました。その頃には体重も70kgを切り体質改善に成功しました。身を持ってダイエット、禁煙への有酸素運動の効果を実践し、患者さんにも勧めているところです。開業後はなかなか大会には出れませんが、せっかく痩せた体型を維持できるようにぼちぼちでもトライアスロンは続けていこうと思っています。

山鉾



地元の熱い祭り, 豊原神社夏季大祭!

大分市医師会 平田 範夫

地球温暖化の影響からか、今年の梅雨は「九州北部豪雨」と激甚災害に指定されるほどの激しい雨で 大分県でもかなりの人々が被災されました。被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。

その中で、ちょうちんをともした豪華絢爛な山鉾8基が競演する日田祇園祭の集団顔見世が行われました。日田市は今年2度の豪雨災害に見舞われましたが、法被姿の男たちは災害復旧への祈りを込めて山鉾をお披露目したそうです。

私は平成22年6月に地元である大分市日岡（日岡小学校そば）に「ひらた呼吸器内科クリニック」を開院しました。日岡地区は、新日本製鐵大分製鐵所の煤煙の関係もあり、気管支喘息・慢性気管支炎などに苦しむ患者様が多い地区です。呼吸器内科を専門にしつつ、地域の「かかりつけ医」としての役割を果たせるように、患者様がホッとできるアットホームな診療所をスタッフとともに目指しています。

当院の隣にある「豊原神社」でも、毎年7月の第4土・日曜日に夏季大祭が開催されます。少雨でも決行する勇壮な祭りで、山車7基が巡行した後に境内で練り合いをします。日田祇園祭にも勝るとも劣らない歴史あるものです。「大分歴史事典」によると、日田祇園祭は寛文5年(1665)の「御用留記録」(長島家)に山鉾の記録があるそうです。豊原神社の創建は古く不詳ですが、寛文8年(1668年)には山車祭りの記載があることから考えると340年以上も続いていることとなります。



豊原神社の境内に勢揃いした7基の山車

勤務医時代から地元の夏祭りには欠かさず参加するほど地元が大好きです。子供の頃から、夏祭りの太鼓の音が聞こえると、うずうずしていてもたってもいられない状態になります。開業した年の夏祭りでは、ドラマチックな出会いがありました。祭りももうすぐ終わる午前0時のクライマックスの頃、一台の救急車が境内の脇に通報を受けて出動してきました。私は少しアルコールを摂取していましたが見過ごすことが出来ず、救急隊に申し出て救急処置に加わらせていただきました。救急車に乗車すると、高校生の女の子が過換気状態で意識消失状態になっていました。ペーパーバック法にて対症療法を行い軽快しました。翌日、その女の子がご両親とともにクリニックにお礼に来られました。なんと彼女は私の小学校時代の同級生の娘さんでした。「明るく心ふれあう地域医療」を目指している私にとって、開業して1年目に遭遇したこのエピソードは、非常に印象深いものとなりました。

さて、今年の豊原神社夏季大祭では、どのようなドラマが展開されるのか・・・

梅雨あけ近くのこの時期、週末の太鼓練習の音を聞くと、うずうずしてしまう地元っ子魂がもう騒ぎ出しています。今年も力一杯、大太鼓を叩き、地元の人々とこころいくまでふれ合いたいと思います。



神殿竣工祝いの方に地元の方々



信友組の山車の前にて

乳鉢



ついに笑った，最後のジョーク

大分市医師会 平川 洋次

1990年代半ば，米国ボストンに留学していました。

当時は東西冷戦終結の余韻も冷めやらぬ頃で，研究機関が多数点在するボストンには多くの旧東側諸国の研究者たちが新天地を求めて移り住んでいました。

私の所属していた研究室にも4人のロシア人と1人の旧東ドイツ人がおり，その他のスタッフもポルトガル人，中国人，イタリア系アメリカ人，イラク系アメリカ人など，国際色豊かな顔ぶれでした。

ロシア人のジョーク好きはかねて耳にはしていましたが，実際に一緒に過ごしてみるとそれは本当でした。何かにつけ「ロシアにはこんな小話がある」と話し始め，本当にロシアにあるのか，あるいはたった今考えついたのかわかりませんが，とても面白いジョークを連発するのです。

中でもとくに秀逸で記憶に残るのは，各国の学校で外国語は何語を勉強するかの雑談をしているときに，

In Russia, optimists learn English, and pessimists learn Chinese.

(ロシアでは，楽観主義者は英語を学び，悲観主義者は中国語を学ぶ。)

とやって，これには国籍を問わず部屋中が大笑いしました。

私もいろいろ考えてジョークを飛ばしてみるのはですが，日本人と欧米人の笑いの感性が違うのか，あるいは単に私に笑いの才能がないだけなのか，こちらがジョークのつもりでも周囲はまじめな顔で聞いていて，残念ながら笑いのクリーンヒットを飛ばすことはありませんでした。

3年間の留学生活も終わりに近づき帰国の準備をしているとき，電話の解約を電話でしなければならなくなりました。若い女性オペレーターの黒人なまりが聞き取れなくて私が混乱していると，相手はうんざりした調子で，

Do you want to speak Spanish? (スペイン語でしゃべりたいか。)

と聞いてきました。アメリカで英語がしゃべれない人の多くはスペイン語をしゃべります。

その瞬間、そうです、ほんの0.何秒のわずかな時間のあいだに、私の頭の中でいろいろな考えが走馬灯のように浮かんできました。

(これはいいぞ.....)

(これはいけるんじゃないか.....)

(これはきつといける.....)

そう確信した私は少し強い口調でこう答えました。

No, no! I'm not a Spanish! (いやいや、僕はスペイン人じゃない!)

一瞬の間をおいて、ウーッフーッフーッという、若い女性オペレーターの押し殺したような低い笑い声が、受話器を通して伝わってきました。(アメリカでは人種問題が今でも深刻で、特にヒスパニックの不法移民は微妙な存在なのです)

アメリカを離れる直前になって、ついに笑ったその瞬間でした。



乳鉢



趣味はマラソン

大分市医師会 嵯川内 英 臣

「嵯，お前の趣味な何か？」と先輩に問われ，これといって趣味と呼べるものがなかった自分は答えに窮していた。以前から誘っていただいているゴルフへの勧誘かと身構えるが，本意はストレスを発散する術をもっておけということである。興味のあるものはなくはないが，改めて考えてみても読書は積読で，音楽も鑑賞というほどでもなく，運転中に限られる。

そんな中で継続してやっていることがランニングである。しかしタイトルとは異なり，マラソンは走ったことがない。走り始めたのは，4年ほど前に，通っていたフィットネスクラブで「1か月でフルマラソンを走ろう」というイベントに参加してからである。それまでは長距離を走ったのは高校のマラソン大会の時くらいであった。最初フィットネスクラブではジムをして，最後に少し走るくらいであった。週に2～3回通っていたので，1か月なら走れそうだと思います。登録した。結果は44.5kmを3時間49分58秒で完走。細切れなので思ったより早い。その後は走る距離が延び，ランニングマシンの上ではなく，家の近所などを走るようになった。西に行ったり東に行ったり，車で普段走らないような道を走ってみたり，結構楽しい。

ある程度走れるようになると，以前から名前は聞いていた「とみくじマラソン」に，まずは10kmにエントリーしてみた。家族に内緒で申し込んでいたので，届いた案内を寄付の依頼と間違えられ，捨てられそうになったりしたが，無事に参加できた。まず完走を目指し，タイムは1時間以内を目標にした。結果は52分24秒で両方クリアできた。翌年はハーフマラソンにエントリーした。この年は家族も一緒にファミリーでもエントリーし，まず家族と2km走った後にハーフを走った。目標は完走であり，それはクリアできたが，タイムは2時間4分59秒であった。こうなると2時間は切りたい。翌年は2時間以内を目標にしたが，1時間59分52秒で何とかクリアできた。その翌年も1時間59分30秒。僅かずつであるがタイムが伸びていると見るか，変わらないと見るか。長距離は速い方ではなく，完走目指して継続していきたい。最近では学会等で出張すれば，靴なども持参して皇居や京都，広島なども走ってみたが，早朝の街はどこも気持ちがいいものである。

今後の目標は，フルマラソンの完走で，この誌上で宣言し，近いうち実現したい。

乳鉢



終わりなき旅

大分県医師会 尾崎 任 昭

医師という職種について、早いもので20年が過ぎた。
この間、医師として、様々な経験をしてきた。

.....
息を切らしてさ 駆け抜けた道を 振り返りはしないのさ
ただ未来だけを見据えながら 放つ願い
カンナみたいだね 命を削ってさ 情熱を灯しては
また光と影を連れて 進むんだ

大きな声で 声をからして 愛されたいと歌っているんだよ
「ガキじゃあるまいし」自分に言い聞かすけど また答え探してしまう

閉ざされたドアの向こうに 新しい何かが待っていて
きつときつとって 僕を動かしてる
いいことばかりでは無いさ でも次の扉をノックしたい
もっと大きなはずの自分を探す 終わりなき旅

誰と話しても 誰かと過ごしても 寂しさは募るけど
どこかに自分を必要としてる人がいる

憂鬱な恋に 胸が痛んで 愛されたいと泣いていたんだろう
心配ないぜ 時は無情な程に 全てを洗い流してくれる

難しく考え出すと 結局全てが嫌になって
そつとそつと 逃げ出したくなるけど
高ければ高い壁の方が 登った時気持ちいいもんな
まだ限界だなんて認めちゃいないさ

時代は混乱し続け その代償を探す
人はつじつまを合わす様に 型にはまってく
誰の真似もすんな 君は君でいい
生きる為のレシピなんてない ないさ

息を切らしてさ 駆け抜けた道を 振り返りはしないのさ
ただ未来へと夢を乗せて

閉ざされたドアの向こうに 新しい何かが待っていて
きっときっとって 君を動かしている
いいことばかりでは無いさ でも次の扉をノックしよう
もっと素晴らしいはずの自分を探して

胸に抱え込んだ迷いが プラスの力に変わるように
いつも今日だって僕らは動いてる
嫌な事ばかりではないさ さあ次の扉をノックしよう
もっと大きなはずの自分を探す 終わりなき旅

.....

これは、日本の天才的な詩人桜井和寿さんがつくった詩である。
ある意味、僕にとっての人生応援ソングでもあった。
困難な症例や未経験な症例についてはたくさんのディスカッションを行ってきた。
救えた事、救えなかった事そして救われた事、
すごく笑えた事やすごくへこんだ事もあった。
そして何より大切にしたいのはいろんな人たちとの出会いや別れだと思っている。

そんな中、最近では日々の雑務に忙しく「愛車いじり」もままならない。僕の「愛車いじり」とは名ばかりのアマチュア整備士（小生）が、愛車を治すこともあれば、悲しくも破壊してしまい、愛車を入院させてしまうということもある。輸入車や国産車では中の配線取り回しなどが異なることが多く、暇さえあれば、事例等がないかネット検索などしている。しかし、一番の問題点は必要とする部品の供給が既になくということだ。

国内の某 オークションなどで、「レアもの」があれば、落としかかるのだが、世の中そう甘くない...終了直前でもつれあい落札できないことも多々ある。しかし、意外と知られていないのが、「ワールドオークション」である。具体的には、アメリカやイギリスなどで行われているオークションである。さすがに世界レベルになると、レアものが意外と多いのである。例えば、新品のヘッドライト、内装部品やブッシュ類など、既に国内では供給されていない部品などがある。はじめは外国でストックされていた部品だと思っていたのだが、実は違っていた。これはOEM (Original Equipment Manufacturer) といい、簡単にいうと、他社のブランドの製品を製造することである。いわゆる「ジェネリック製品」に相当するのであるが、実際に手にとってみると、年式も古いわりに、しっかりとした作りで装着しても信頼できる純正品以上の部品なのである。

日本の利益主義と異なり外国人の物に対する考えがちがうのであろうか。
しかし、僕にとっては実にありがたい話である。

その反面、今の日本は、悲しい出来事、腹が立つこと、むなしいことがたくさんある。生活していく上で速やかに変えていかなければならないことがたくさんあるはずなのに、問題は後回し、棚上げするばかりで、決定までのスピードは遅く一向に進展しない。生活はとまっている訳ではないので臨機応援に改革して頂きたいものである。

本当にため息ばかりの世の中である。
こんなお先真っ暗な、僕らの「終わりなき旅」はいつまで続くのだろうか...

乳鉢



しまなみ海道

大分都市医師会 立川 貴 寿

開業してからはなかなか出かける機会がないのだが、数少ない趣味の一つにバイクツーリングがある。やまなみハイウェイから阿蘇・久住、日田から五馬高原を越え黒川へ通じるファームロードなどお気に入りのコースは数あるが、中でも特にお勧めなのが西瀬戸自動車道、通称「瀬戸内しまなみ海道」だ。

しまなみ海道は瀬戸内海に浮かぶ6つの島を経て、広島県尾道市から愛媛県今治市に至る全長約70kmのルートだ。3路線ある本州四国連絡橋(瀬戸大橋)の1つで本線は高速道路なのだが、この路線には他とは異なる大きな特徴がある。実は島々に架かる橋には本線の脇に側道が設置されていて、歩行者・自転車・原付(125cc以下)でも通行できるのだ。高速道路で一気に渡るのも悪くないが、この道の醍醐味を味わうには50cc超の原付二種がベストチョイスだ。

側道の入口はインターチェンジではなく、橋のたもとにある。橋の上までは標高差があり、曲がりくねったスロープ状の通路を登る。料金箱に賽銭よろしく通行料を投入すれば、一大パノラマの始まりだ。眼下に広がる海と島々の絶景を存分に堪能しながら、潮風を浴びて自分のペースで走れるのは高速道路にはない特権だ。渡り終わるとスロープを下り、海沿いの道を次の橋へと向かう。橋は島々を結ぶ生活道路でもあり、通勤・通学のバイクや自転車が行き交う。

尾道から向島、因島を経由しアートの有名な生口島や大三島、塩の伯方島と見所も多い。大島と今治の間に架かる三連の来島海峡大橋は全長が4km以上もあるため、海を渡っている実感を満喫できること請け合いだ。加えて通行料が、全ての橋を合計しても510円(!)と格安なもの嬉しい。運が良ければ瀬戸大橋のゆるキャラ、「せとうちわたるくん」に出会えるかも知れない。

大分からのアクセスは国東竹田津～山口県徳山間のスオーナダフェリーと、佐賀関～愛媛県三崎間の国道九四フェリーを利用してループ状に周回できる。時間は1泊2日あれば充分だ。道中には錦帯橋、厳島神社など名所が点在する。瀬戸内海の味覚に舌鼓を打つもよし、道後温泉で疲れを癒すもよし。松山から八幡浜にかけての国道378号は夕日が美しく、佐田岬の尾根を貫くメロディーラインは左右に海を望む爽快な道だ。いずれは後ろに子供を乗せてタンデムで走りたいと思っているが、さて実現するのはいつの日になるだろうか。